

研修カリキュラム表
(介護職員初任者研修)

事業所名：株式会社アルプスビジネスクリエーション

令和4年度

科目の内容等				評価方法
科目の細目	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
1 職務の理解（6時間）				
多様なサービスの理解	3	—	介護保険の各サービス、保険外サービスの概要を講義形式で説明する。	評価無し
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	視聴覚教材を用い、各サービス事業所・介護保険施設等の仕事内容の紹介を行い、グループワークなどで理解を深める。また、感想レポートを提出させる。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）				
人権と尊厳を支える介護	5	2-②	人権及び尊厳についての基本的な考え方について説明し、事例に基づく討議を行う。また、人権を守るための各制度について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
自立に向けた介護	4	2-①	上記内容をベースに、自立支援という側面の基礎知識を講義及び事例を用い説明する。	
3 介護の基本（6時間）				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	3-①②	テキストに基づき、介護職の役割や介護現場での事例研究などグループワークを交え理解を深める。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
介護職の職業倫理	2	3-③	被介護者及び家族との関わりや身体・生命に関わることなど講義を中心に職業倫理の基本を理解する。	
介護における安全の確保	1	3-④	テキスト及び事例を用い、安全対策・感染予防の重要性を説明する。	
介護職の安全	1	3-⑤	テキスト及び事例を用い、介護職側の安全対策・感染予防の重要性を説明する。	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）				
介護保険制度	3	4-①②③	テキスト及び事例を用い、関連法規・制度及びその関係を説明する。また、介護保険の理念についてグループワークを交え、理解を深める。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
医療との連携とリハビリテーション	3	4-⑤	テキスト及び事例を用い、介護と医療分野とのすみ分け、連携について説明する。	
障害福祉制度及びその他制度	3	4-④	テキスト及び事例を用い、障害福祉制度および介護との関連性を説明する。	
5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）				
介護におけるコミュニケーション	3	5-①②③	テキスト及び事例を用い、コミュニケーションの重要性、介護場面での特徴などを説明する。また、事例に基づくコミュニケーションの技法及び討議をグループワークを交え、理解を深める。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
介護におけるチームのコミュニケーション	3	5-④	テキスト及び事例を用い、チームコミュニケーションや個別援助計画など必要な業務を説明する。また、個別援助計画書の作成、報告・連絡・相談の演習をグループワークにて行う。	
6 老化の理解（6時間）				
老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	6-①	テキスト及び事例を用い、老化に伴う心身の変化や特徴について説明する。また、生理的側面の知識を身につけることの必要性についてグループワークを行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
高齢者の健康	3	6-②	テキスト及び事例を用い、老化に伴う疾病及びその予防について説明する。	
7 認知症の理解（6時間）				
認知症を取り巻く状況	1	7-①	テキスト及び事例を用い、認知症の正しい理解及び認知症ケアについて説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	7-②③④⑤	テキスト及び事例を用い、認知症の概念や健康管理について説明する。	
認知症に伴うこころとからだの変化と日常	2	7-⑤	テキスト及び事例を用い、身体的・精神的変化とその対応(ケア)について説明する。	
家族への支援	1	7-⑥⑦⑧	テキスト及び事例を用い、家族の受容や介護負担の軽減について説明する。また、家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて、グループワークを行う。	

研修カリキュラム表
(介護職員初任者研修)

事業所名：株式会社アルプスビジネスクリエーション

令和4年度

科目の内容等				評価方法
科目の細目	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
8 障害の理解（3時間）				
障害の基礎的理解	1	8-①	テキスト及び事例を用い、障害の概念及び社会福祉について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1	8-①	テキスト及び事例を用い、障害の医学的側面、種類とその対応について説明する。また、グループワークを行いそれぞれの障害の特性と留意点の理解をする。	
家族の心理、かかわり支援の理解	1	8-②	テキスト及び事例を用い、家族の受容や介護負担の軽減について説明する。	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）				
■ 基本知識の学習 12時間				
介護の基本的な考え方	4	9-①	テキスト及び事例を用い、介護の基本的な考え方について説明する。	次の①②により評価を行う ①研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。 ②小テストを行い習熟度に関する評価を行う。
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	9-①④	テキスト及び事例を用い、こころのしくみについて説明する。	
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	9-①⑤	テキスト及び事例を用い、からだのしくみについて説明する。	
■ 生活支援技術の学習 51時間				
生活と家事	3	9-①⑥	テキスト及び事例、演習を用い、生活支援について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
快適な居住環境整備と介護	3	9-③	テキスト及び事例を用い、快適な生活環境に関する基本的内容について説明する。	
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	9-⑦	3時間は介護技術に関する講義を行い、4時間は実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例による)	次の①②により評価を行う。 ①研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。 ②介護技術のチェックリスト形式による確認を行ない習得度に関する評価を行う。
移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	9-⑧	5時間は介護技術に関する講義を行い、7時間は実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例による)	
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	9-⑨	3時間は介護技術に関する講義を行い、4時間は実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例による)	
入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑩	3時間は介護技術に関する講義を行い、3時間は実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例による)	
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	9-⑪	2時間は介護技術に関する講義を行い、5時間は実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例による)	
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	9-⑫	1. 5時間は介護技術に関する講義を行い、3時間は実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例による)	
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	1.5	9-⑬	テキスト及び事例を用い、死に向き合うこと、家族の支援について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
■ 生活支援技術演習 12時間				
介護過程の基礎的理解	6	9-①②	テキスト及び事例を用い、介護過程の意義、目的などについて説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価を行い評価する。
総合生活支援技術演習	6	9-②⑦⑧⑨⑩⑪⑫	事例・演習を通じて、施設などで行われる介護職の日常業務を体得する。	介護技術のチェックリスト形式による確認を行ない習得度に関する評価を行う。
10 振り返り（4時間）				
振り返り	2	—	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきことについてグループワークを行う。	評価無し
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	—	研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(off-IT、OIT)の紹介。	
合計	130 時間			